

2026年2月8日午前10時30分

降誕節第7主日 主日礼拝

司会 徳島恵子  
奏楽 川名ひさ子

讃美歌・詩編交誦・信仰告白では起立をしますが、お立ちになりにくい方は、座ったままでどうぞ。

(平和のあいさつ)

前奏

招きのことば ゼカリア書 14:6-9a

讃美歌 17「聖なる主の美しさと」

交説詩編 147:1-11(P.164/160)

一 同

祈り

司会者

『関東教区お祈りカレンダー』  
東所沢教会 ベウラ教会 狹山教会  
(主の祈り)

讃美歌 446「主が手を取って起こせば」 一 同

聖書 旧約:列王記下 4:32-37(P.583)  
新約:マルコ 2:1-12(P.63)

メッセージ『非常識な信仰』

祈り 川上 盾 牧師

讃美歌 459「飼い主わが主よ」

一 同

献金

(献金感謝の祈り)

信仰告白(インドネシアの信仰告白②)

一 同

頌栄 25

川上 盾 牧師

祝祷

後奏

報告・紹介

<招きのことば>ゼカリア書 14:6-9a

その日には、光がなく、冷えて、凍てつくばかりである。しかし、ただひとつの日が来る。その日は、主にのみ知られている。そのときは昼もなければ、夜もなく、夕べになんでも光がある。その日、エルサレムから命の水が湧き出で、半分は東の海へ、半分は西の海へ向かい、夏も冬も流れ続ける。主は地上をすべて治める王となられる。

《2月礼拝当番》 植松みよ 徳江由利  
大川原恵子 岩渕育雄  
猿谷富子 長谷川瞳

《今週の集会・行事》

- ◎ 本日 9:15 CS朝礼拝
- ◎ 10日(火) 牧師、教区常置委(大宮)
- ◎ 11日(水) 10:30 群馬地区2.11.集会  
「平和共生を歩むパレスチナ」  
講師:村山盛忠先生 於・高崎教会
- ◎ 11日(水) 13:30 2.11.市民のつどい  
映画『YASUKUNI』上映会(県教育会館)
- ◎ 13日(金) 10:00 会堂清掃 C組

《次週の主日》

- ◎ CS朝礼拝 9:15
- ◎ 主日礼拝 10:30  
メッセージ『舟の中で眠る人々』
- 聖書: 旧約:ヨナ 1:4-16(P.1145)  
新約:マルコ 4:35-41 (P.68)
- 讃美歌 18, 456 462, 26
- 交説詩編 125:1-5(P.147/143)
- 司会: 手塚福治 奏楽: 金井文子

《予告》

- ◎ 灰の水曜日 18日(水) レントに入る
- ◎ レト第一主日礼拝 25日(日) 聖餐式

《報告》

## ◎ 群馬地区地区2.11.集会

午前10:30から高崎教会にて行なわれます。大阪より村山盛忠先生(隠退教師・90歳)をお迎えして、パレスチナ問題について学びます。午後1:30からは県教育会館で市民のつどい・映画『YASUKUNI』上映会が行なわれます。平和について考え、願い、祈る一日を過ごしましょう。

## ◎ 2月定例役員会報告(抄)

1. レト第一主日礼拝(2/22) … 聖餐式を執行。レントの期間中、キャンドル消火を行なう。
2. 創立140周年に関する件 … \*記念イベントはこれまで出された候補にとらわれず、若者に届くような企画を考えたい。\* 140年誌は教会員・地区・学校関係に配ることとし、200部作製する。\* 教会パンフレット・案内看板に向けて「宣教ヤッヂー」を募集してゆきたい。\* 屋根の改修については、ミサワホームの見積もりを受けているだけなので、それ以外の業者の見立ても聞いて進めたい。\* 募金については教会総会で議案にして提案できるように準備を進める。
3. 無牧師教会の応援に関する件 … 今後牧師を説教応援に送り出すことが考えられる。その際、前橋教会では信徒のメッセージによって礼拝を行なう可能性を追求してゆきたい。
4. その他…\*会場使用 5/9:ぐんまYMCA 新主事就任式 5/15:地区婦人部総会 5/23:篠塚大輝・徳江めぐみ 結婚式 \*4月役員会はイースターと重なるので前週3/29に行なう。

《消息》

- ◎ 早川満寿子さん … 2月5日、主のもとに召されました。91歳でした。葬儀は2月9日(月)13:00より、原宿教会にて行なわれます。ご遺族に主の慰めを祈ります。

《先週の集会》

	礼拝堂	オンライン	献金
主日礼拝	59	18	40,947
聖研祈祷会		11	

《メッセージ》「平和の種をまこう」

マルコ4:1-9(2月1日)

▼1月11-12日、平和の種まきフェスティバル(NCC教育部呼びかけ)にスタッフとして参加した。私が受け持った分科会は、「これもさんぴんかり」の中から平和をテーマにした歌を紹介・実演し、最後にみんなでひとつの歌を作りたいものだった。▼他にも様々なワークショップが行われる(多文化共生、ジェンダー/セクシュアリティの学び、非暴力コミュニケーション等々)、最後の派遣礼拝では私の分科会で作った歌をみんなで歌った。「分断と対立」が深まっている世界の現実の中で、共生・共感をもとに平和を目指すという、キリスト教が大切にしてきたメッセージを分から合った。▼一方、1月31日には群馬の森で行なわれた朝鮮人犠牲者の追悼式に参加し、「抵抗の詩人・尹東柱」の歌を歌ってきた。この地に建っていた朝鮮人追悼碑に対し、右翼団体から「自虐的だ」とのクレームがつけられ、その策動により2年前、県は追悼碑を撤去した。しかし撤去後も市民グループの呼びかけにより追悼集会が行なわれている。▼尹東柱が逮捕され獄中死をする原因になったのは、生前彼がシングル文字で詩作をしていたことが「治安維持法違反」とされたからであった。自分の民族の文字で表現することを、当時の日本政府は認めなかつたのである。▼いま選挙で「スパイ防止法」の制定が叫ばれている。もしこの法律が出来れば、言論弾圧により自由に物が言えない時代が来るかもしれない。▼牧師が礼拝で政治的発言をすることへの批判は昔からある。確かにいろんな立場の人が多いので、偏りは避けるべきなのかも知れない。しかし事柄によっては沈黙することが神の前での過ちにつながることもあると思う。▼「ナチスに抵抗した牧師」として知られているM.ニーメラーは、時代の中での自分の態度についてこう述べている。「共産主義者が弾圧され、社会主義者、組合、ユダヤ人が次々に弾圧された時、私は黙っていた。最後にナチスは教会を弾圧したので立ち上がって抵抗を始めようとしたが、その時はもう遅かった」。▼今日の聖書は「4つの種の譬え」である。3つの種は、鳥に食われたり、石地で焼けたり、茨で遮られたりして実を結ばなかった。4つ目の種だけはよい地に蒔かれて100倍に実った。これを受けて「だから私たちもよい実をつけるよい地となりましょう」と結びたくなる。▼しかしあし違う視点でとらえたい。この「種を蒔く人」は、ある意味効率の悪い働きをしている。熟練なら良い地に集中して種をまくべきだ。しかし彼はそうしない。ムダに思える所にも種を蒔き続けるのだ。▼種を蒔くという行為は、すぐに成果が期待できない。しかしそこには時を待つ覚悟、そして未来に対する信頼がある。歴史を振り返れば今よりもっと酷い時代もあった。しかしながら中でも諦めずに、平和の種を蒔き続けた人たちがいたことだろう。私たちも未来を諦めず、平和の種を蒔き続ける者でありたい。